

令和 4 年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	57	学校名	掛川西高等学校	校長名	廣住 諭
------	----	-----	---------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア 授業を中心 に据えた主 体的な学び と高い学力 の育成	A 授業アンケート 2回の実施と「授業が よくわかる」生徒 60% 以上、「授業で力がつ いた実感がとてもあ る」生徒 40%以上	・授業アンケートでは、 「分かる授業」92.3%、 「授業で力がついたと 実感」83.6%が肯定的 な回答	B	<p>昨年度と同様に授業アンケートの結果から充実した授業が展開されたことが伺える。今後は生徒の1台パソコンを活用した授業がさらに広く行われることになる。1台パソコンを有効に使いながら質の高い授業のやり方等を教員間で共有していく必要がある。</p> <p>昨年度に比べ、全国平均点の1割を上回った科目は増加した。共通テストが求めている教科指導について考えていく必要がある。</p> <p>模試の活用としては、各回ともベネッセ担当者を招いて模試分析報告会を実施することができた。分析資料をもとに教員にとって勉強になることが多かったが、業務多忙の中で生徒の指導への生かし方が課題である。</p> <p>3年生の平均家庭学習時間については、平日4時間以上学習できた生徒が多かった。特に休日8時間以上は95%であった。1・2年生は、授業の予習復習の時間をしっかりとらせたい。3年生は、1学期終了時から2学期にかけての学習指導にもう少し力を入れたかった。</p> <p>学習時間は4、9、1月に調査をしている。結果を生徒との面談で活用するなど、これからも指導に生かしていきたい。</p> <p>部活ガイドラインを守る顧問は多く、生徒の下校時間も比較的早めである。時間に関する意識も高まっているので、来年度はガイドラインの点検を行い、よりよい時間の使い方を検討したい。</p> <p>ICT（R3比5.2%増、R2比2.7%増）とAL（R3比1.9%増）の教員の実施度が上がっているのと同時に、生徒の答えるICT（R</p>
	B 大学入学共通テ ストの全教科・科目の 校内平均点が全国平 均点の 1 割増し以上 になる	・大学入学共通テスト の平均点が1割増し以 上の科目は、8/19科目 （受験者数が少数の科 目は除く）		
	C 測定ツールをと おして把握した分析 結果・共有内容に基づ き指導改善に取り組 んだ教員 80%以上	・測定ツールを活用し て指導の検証、改善を 行っている教員の割合 72.5%		
	D 1・2年生は、平 日午後9時までに家 庭学習を開始し2時 間以上、休日4時間以 上の学習。部活動引退 後の3年生は、平日4 時間以上、休日8時間 以上の学習	・平日は午後9時まで に学習を開始している 生徒の割合 74.3% ・平日に2時間以上家 庭学習をしている生徒 の割合 59.6% ・休日に4時間以上家 庭学習をしている生徒 の割合 60.1%		
	E 部活動終了時間 の遵守と帰宅指導の 徹底	・午後7時20分までに 下校している生徒の割 合 92.2%		
	F 計画的に本格的 AL型授業を実施し た教員 90%以上	・授業でICT機器を 積極的に活用している 教員の割合 72.5% ・アクティブラーニン グを取り入れた授業改 善に積極的に取り組ん でいる教員の割合 80.0%		

					4 : 94.4%、R3 : 88.6%、R2 : 87.4%)とAL (R4 : 88.1%、R3 : 85.7%、R2 : 79.5%) の実施の割合も毎年増加している。このまま継続させていきたい。
イ	高いところを育む計画的・体系的な進路指導の推進	A 1年終了時の国立大学希望9割程度	・国公立大学希望者の割合 93% (2学期時点)	A	きめ細かな進路指導を推進し、幅広く学ぶことの大切さを理解させることができた。 特に文理選択・科目選択や1月の進路指導を通して定着できた。 共通テストの出題内容の変化もあつてか、難関国公立大と難関私立大との受験対策の両立が難しくなっている。 今年度は3年生の進路講演や1・2年生のミニ大学、社会人講話や静大理学部訪問等の対面実施が可能となり、生徒はより進路意識を高めることができた。 カリキュラム整備については、昨年度比 2.5%減、一昨年度比 15.2%増であった。すでに効果が定着していると分析している。
		B 2年志望理由書の作成で、9割以上の生徒が進路目標を明確化	・2年全員が志望理由書を作成し、管理職面談を受けることができた		
		C 大学入学共通テスト5・6教科7科目型の受験割合 80%以上	・5、6教科7科目型で受験した3年生の割合 94%		
		D 教務、研修、進路課が連携してCT、LHR等を改善し、進路とCT、LHRのつながりを持たせる	・CT、LHRのつながりを持たせ統一的なカリキュラムとして整備されていると答える教員の割合 77.5%		
ウ	「有徳の人」づくりを意識した、思いやりと自主自立の精神の育成	A 部活動ボランティア活動参加率 100%	・部活動ボランティア活動参加率 100%	A	生徒会活動、学校行事、部活動等への生徒の主体的な取り組みを目指し、指導と支援を行っている。 部活動ボランティアは昨年度から少しずつできる環境になってきた。今年度は 100%達成できたので、来年度は内容を高めたい。 文化祭は生徒会が主体となって取り組む事で、学校への所属意識は高まり、主体的に取り組む生徒は増えた。 探究発表では、2年生のみならず1年生も積極的に探究のプロトタイプ作りにチャレンジしている。他の学年やグループの発表を聞くことで、来年度の取り組みが磨き込まれていくと感じられる。 挨拶は自主的にできるようになっている。部活単位、クラス単位でさらに働きかけをしていく。 スマホの平均使用時間は昨年より減少。利用時間と利用内容を分析し、問題点を挙げていきたい。 エンパワーメントプログラムは内容についても好評であったので、次年度も継続していきたい。
		B コロナ禍での開催方法等を工夫し、充実した文化祭を実施する	・文化祭はコロナ対策をする中で行われ、生徒も主体的に活動できた		
		C 探究発表会で50%のグループが提案の検証結果まで報告する	・探究発表については、半分以上のグループがプロトタイプを制作できている		
		D 学校内外で生徒自ら挨拶ができるよう部活動やクラス等で促す	・校内外で積極的にあいさつをしている生徒の割合 88.3%		
		E 1年全生徒にスマホに関する調査・分析・講座を実施する	・1年生にスマホ使用について調査・分析・講座を実施できた		
		F 家庭学習の妨げになるようなスマホの使用をしていないと答える生徒 70%以上	・スマホの安心・安全な使い方を心がけている生徒の割合 92.7%、一日の平均使用時間2時間未満の生徒の割合 56.0%		
		G エンパワーメントプログラム受講希望者 30人以上	・昨年度と異なり本校単独で実施、本校のみで受講希望者 34人		

<p>エ</p> <p>豊かな感性を養い、健やかな心身を鍛える</p>	<p>A 地域の要請に応え、イベント参加や地域団体との連携を行う</p> <p>B 「冀北講演会」65%、「芸術鑑賞会」80%以上の生徒満足度</p> <p>C 年間貸出冊数の平均を昨年度よりも高める</p> <p>D SHRや学年集会等の機会に人権意識を育む働きかけを行う</p>	<p>・部活動を通して地域社会に貢献する機会があった生徒の割合62.7%</p> <p>・「冀北講演会」は「よかった」「まあよかった」と答えた生徒82%、「芸術鑑賞会」は「とても満足」「まあ満足」と答えた生徒92.6%</p> <p>・昨年平均と比較すると、1年生は0.4%減、2年生は0.2%増、3年生は変化なし、全体では0.1%減少</p> <p>・人権意識向上のための働きかけは継続的に行うことはできなかった</p>	<p>B</p> <p>市や地域の要請に応え、イベント参加や地域連携を積極的に進めている。今年度も、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら可能な範囲で取り組んだ。</p> <p>冀北講演会と芸術鑑賞会は、満足度が高く、充実した内容にすることができた。コロナ禍で「冀北講演会」は1・2年生がリモートでの視聴になったのが残念であった。対面で実施できるよう開催方法を検討したい。</p> <p>「読書会」「図書館だより」「新着本の掲示」など委員会活動を中心に読書活動の更なる充実を図り、図書館の利用促進、貸出冊数の維持向上を目指したい。</p> <p>人権教育については、1年を通じた進め方を検討していきたい。</p>
<p>オ</p> <p>4つの資質・能力を育成するためのカリキュラムマネジメントの実施</p>	<p>A 職員研修会5回(情報セキュリティ、BYOD、探究、カリマネ、防災)</p> <p>B 年間2回の生徒、教師対象アンケートを実施し、資質・能力育成の検証を行う体制を確立する</p>	<p>・予定されていた5回の職員研修を実施することができた</p> <p>・年間2回のアンケートを実施した。資質・能力育成の検証を行う体制が確立しつつある</p>	<p>A</p> <p>情報セキュリティ研修をはじめ、ICTやカリマネなど5回の職員研修を実施することができた。</p> <p>年間2回のアンケートは予定通り実施できた。成果を今後の教育活動に活かしたい。</p>
<p>カ</p> <p>安心安全な学校生活のための保健指導、安全指導の徹底</p>	<p>A 教育活動をとおりして新型コロナウイルスに感染する本校生徒・職員を0に近づける</p> <p>B 「薬学講座」「健康教育講座」において、しっかり理解した生徒90%以上</p> <p>C 職員間で情報を共有し、問題の早期発見と早期対応をする</p>	<p>・新型コロナウイルス感染者複数名。1年生1クラス、2年生2クラスで学級閉鎖措置</p> <p>・クラスや部活動内の感染と思われる事例があった</p> <p>・生徒の理解度「薬学講座」97.6%、「健康教育講座」99.0%</p> <p>・心身のケアが必要な生徒に対して個別にきめ細やかな指導を行っている教員90.0%</p> <p>・悩みや心配事を相談できる先生がいると回答した生徒66.8%</p>	<p>B</p> <p>新型コロナウイルス感染症に関しては、頻繁に注意喚起を行い、保健委員を活用して感染対策を取ったが、複数名の感染者、学級閉鎖があった。引き続き一層の感染対策の徹底と環境整備の強化に努めたい。5類引き下げの場合、その対応を整備したい。</p> <p>問題を抱える生徒については、「心の元気度チェック」や面談を実施。得た情報は、担任や学年部、保健室等と共有した。ケースによっては、スクールカウンセラーや外部機関とも連携して対応した。</p> <p>「悩みを相談できる先生がいる」の項目は学年が進むにつれて肯定率が上がる。低学年から相談しやすい体制作りや働きかけを行いたい。</p>

		D 地域防災訓練への 1・2 年生参加率 80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1・2 年生の地域防災訓練参加率 5% ・ 不参加理由は未実施 12%、対象外 22%、部活・模試 5%、自己都合 55% 		<p>保健室では、保健上注意を必要とする生徒一覧や保健室利用報告を配布し、担任や学年部と共有した。アレルギーや配慮の必要な生徒の把握を継続していく。</p> <p>防災訓練は、コロナ禍で未実施や対象者を各世帯 1 名に限るなど、地域によって訓練の実施やその方法にばらつきがあり、参加率の向上に繋がれなかった。不参加理由の 55%が自己都合であることから、来年度は訓練参加への呼びかけを強化したい。</p>
キ	学校の実践と成果を積極的に発信	A 部署ごとに定めた HP 担当を中心に更新し、昨年度以上の記事更新数を旨す	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部署ごとの記事更新担当制が定着した。1 月末までの記事更新数は前年度比 7%減、アクセス数は 14.1%減 ・ 学校公式 note (ブログ) をスタートし、情報発信をすることができた 	B	<p>ICT委員会による中学生WEB体験入学サイトの作成を今年も行うことができた(3年目)。HP以外のメディアも積極的に活用する必要がある。また、1年生の一人一台端末導入のために、保護者に本校のICT活用についての動画を発信した。</p> <p>「掛西ラボ」の申込はフォームで実施した。生徒の収容力を考え、早めに締め切った。参加数だけでなく広報ポスターの各小学校への配布で目的を果たした。来年度は収容を工夫し、1回の開催とする。課題研究の探究の時間確保も課題である。</p>
		B 高校入試志願倍率 1.1 倍以上			
		C 掛西ラボ参加者 40 人以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 掛西ラボ参加者 29 人、昨年度 (13 人) より 2 倍以上 		
ク	教員の資質能力の向上を図る研究・研修の推進	A 自己有用感に関するアンケートによくあてはまると答える生徒の割合 40%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の良さに着目した全教職員による生徒への声掛けを行い、自己有用感を醸成すると答えた教員 82.5% ・ 先生方は、私を勇気づけたり、励ましたりしてくれると回答した生徒 77.4% 	A	<p>自己有用感に関するアンケートの結果からも、教員の資質向上を図り、生徒の自己有用感の育成につながる教育実践を目指して研究・研修に力を入れてきた成果が表れてきていると考える。今後生徒が主となる活動を増やしていきたい。</p> <p>授業参観について、昨年度の 63.6%に比べて本年度は微減したが、一昨年度の 45.3%からは増加している。さらに啓蒙していきたい。</p>
		B 各教員の他教員授業参観年間 3 回以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員アンケートでは 63.6%であった。十分実施されたとは言えなかった 		
		D 職員の不祥事や重大ミス を 0 にする	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の不祥事、重大ミス 0 件、体罰・セクハラに関する生徒アンケート 0 件 		

ケ	情報処理システム活用と情報管理	A 個人情報漏洩等の情報事故 0	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティや個人情報保護に十分注意を払っている教員の割合 95.0% ・個人情報漏洩等の情報事故 0 	A	<p>個人情報漏洩等の情報事故がないことは当たり前ではあるが、日頃から心がけることを意識し来年度以降も継続していきたい。</p> <p>わかりやすい職員研修を行い、ICT機器が使いやすい環境を作っていくことで、ICT活用ができる教員を増やしていきたい。</p> <p>ICT推進委員会において、複数のワーキンググループを設置し、校務、授業での活用や使用ルール、経費節減等について建設的な検討を行い、研修会を実施できた。</p>	
		B ICT活用が「できる」「ややできる」と答える教員 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTが「できる」「ややできる」と答える教員の割合 72.5% 			
		C 情報セキュリティ研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ研修を4月に実施 			
		D 複数回のBYOD研修	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を実施できた 			
コ	学習環境の整備と円滑な事務業務の執行	A 大規模災害時マニュアルの更新を行い、防災訓練で職員・生徒に周知を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルを更新 ・6月は地震想定、8月には浸水想定の方災訓練を実施 	B	<p>防災に関しては、膨大になる危機管理マニュアルを教職員に周知するため、エッセンスのみをまとめた縮小版を配布した。8月の浸水想定の方災訓練では初の試みとして垂直避難を実施した。9月の台風15号に伴う大雨で県内は大きな被害を被ったことから、意味のある訓練になった。</p> <p>教職員（教員・技能員）と情報共有を図り、危険箇所の解消に速やかに対応することにより、今年度は施設、設備を原因とする事故を0にするすることが出来た。</p> <p>電気料高騰により予算が逼迫する中、定期的に予算の執行状況を共有することにより適切な予算執行を行うことができた。一方で、その情報により、教員が効果的な予算請求が出来ない状況になってしまったと思われるので、教職員間のコミュニケーションを積極的に行い、限られた予算を効果的・効率的に執行し、学習環境の整備に努める。</p>	
		B 校内施設、設備の安全を図っている教職員 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・校内施設、設備の安全を図っている教職員の割合 92.5% 			
		C 効果的な予算請求をしている教職員 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な予算請求をしている教員の割合 75.0% ・印刷用紙の節約・再利用や、電気・水道使用量等の削減に努めている教員の割合 87.5% 			

サ	教職員の ワーク ライフ・バ ランス	A 教職員は、遅くとも平日 20 時までには帰宅する	・平日 20 時までの退勤を心がけている教員の割合 62.5%	B	<p>平日 20 時までの退勤を心がけている教員は昨年度より減少した。定時退勤日を浸透させる対策が急務である。</p> <p>本校の部活動活動方針による休養日の遵守は 96%以上であり、部活ガイドラインを守る顧問は多い。時間に関する意識も高まっているので、来年度はガイドラインの点検を行い、よりよい時間の使い方を検討したい。</p> <p>教職員の心身の健康のために、業務の精選や効率化、行事や会議の見直し等を進めてきた。教職員がワークライフ・バランスのとれた働き方ができるよう、一層の環境整備に努めたい。</p> <p>行政職員が学校行事に積極的に関わることができた。また、行政職員の専門性を活かし、アカデミックハイスクール事業の企画段階から財務面で関わることができた。今後も、事務処理に留まらない、新たな業務に積極的にチャレンジしていく。</p>
		B 定時退勤日の定時退勤率 80%	・月曜日の定時退勤を心がけている教員の割合 30.0%		
		C 公式大会等がない限り、週当たり平日 1 日以上、土・日 1 日以上の部活動休養日を遵守する	・心身の健康面に配慮し、部活動指針を守って部活動の指導をしている教員の割合 80.0%		
		D 行政職員の専門性を活かし、学校教育活動に積極的に関わるような新たな業務にチャレンジする	<p>・オープンスクール等の受付を事務職員が担当する等、学校行事に積極的に関わることができた</p> <p>・カリマネ委員会兼アカデミックハイスクール委員会に予算担当も参画することにより、財務面から事業を推進することができた</p>		